



今！ビジネスモデルの刷新が必要

大きな社会と経済の変化が迫っている。今話題になっている機械学習やブロックチェーン、自動運転、フィンテック、IoT、インダストリー4.0などは2020年以降の社会や経済では当り前のものとして実装されるはずだ。特に日本経済はオリンピック以降の経済の断層が予想される。

2025年では現在のビジネスモデルは競争力を失うだろう。しかもビジネスモデルを刷新してそれを組織に実装するには時間がかかる。最大の課題は、機械学習やブロックチェーンなどの先端技術の人材を用意することであるが、日本にはほとんど人材が存在しないので、採用することもままならない。

そのために強力な人材育成プログラムが必要である。と同時に経営は2020年以降の世界をビジョンとして認識しなければならない。

未来を予測する必要は無い。なぜならば既に未来は起きているからである。しかしその未来を識るためには情報の収集と分析そして編集という強い知的腕力が必要である。

10年前にiPhoneが発売されたが、この10年間にスマートフォンが創り出した世界と経済をその時誰が予測できたのか。スマートフォンがなければアップルやグーグル、アマゾン、フェイスブックという巨大なビジネスは実現していないだろう。彼らの時価総額や手持ち現金は巨額で、トヨタやIBMの時価総額や手持ち現金をはるかに超えている。起きていた未来をビジネスモデルに実装できなかったかつての巨人たちは今一生懸命キャッチアップしようとしているが、時間は買えない。マイクロソフトは検索エンジンでグーグルに追いつけず、クラウドコンピューティングではアマゾンに追いつけないだろう。GM、トヨタ、フォードは自動運転で業界のリーダーにはなれない。

ビジネスモデルの刷新は2020年以降の世界をどう見通すから始まる。これが経営の最優先課題である。ビジネスモデル学会はこれを支援する活動を展開する。

東京大学名誉教授
ビジネスモデル学会前会長
松島 克守

